

実施報告

情報メディアセンターの無駄紙率削減への取り組み

原 直美

横浜キャンパス（環境情報学部）の情報メディアセンターで行っている ISO14001 活動のうち「無駄紙削減への取り組み」について、これまでの活動内容と今後について報告する。

キーワード：ISO14001，無駄紙，プリンタ

1 はじめに

武蔵工業大学では1998年、日本の大学としては初めてISO14001の認証を取得した。情報メディアセンターではISO14001の活動として、環境管理マニュアルに基づき以下の7項目を定期的に測定している。

- 無駄な電力使用（教室の不要点灯、空調、機器等）
- 電気機器の運用時間
- 無駄紙率
- ゴミ分別状況
- 紙の分別状況
- グリーン調達
- 水の使用量

本稿ではこの中の「無駄紙率」を取り上げ、無駄な紙の使用を減らすために、測定結果をもとに情報メディアセンターが行っている取り組みについて述べる。

2 活動報告

2000年に環境情報学部は完成年度を迎え、学生数も開学当初の約4倍となった。学生数の増加に伴い演習室に設置されているプリンタ利用頻度が高くなり、プリンタ用紙の使用量が著しく増加した。用紙使用量の増加は当然のことではあるが、無駄な印刷を行ったために使用した紙の量も多く、こうした“無駄紙”をいかに減らすかが課題となった。

情報メディアセンター内の演習室で使用されるプリンタ用紙は事務室で管理しており、各演習室への供給枚数とリサイクルボックスに入れられた無駄紙の枚数から無駄紙率を算出している。集計結果は毎月、情報メディアセンターホームページで公開している。図1は2001年4月～2002年1月までのプリンタ用紙使用量と無駄紙率のグラフである（測定は情報処理中演習

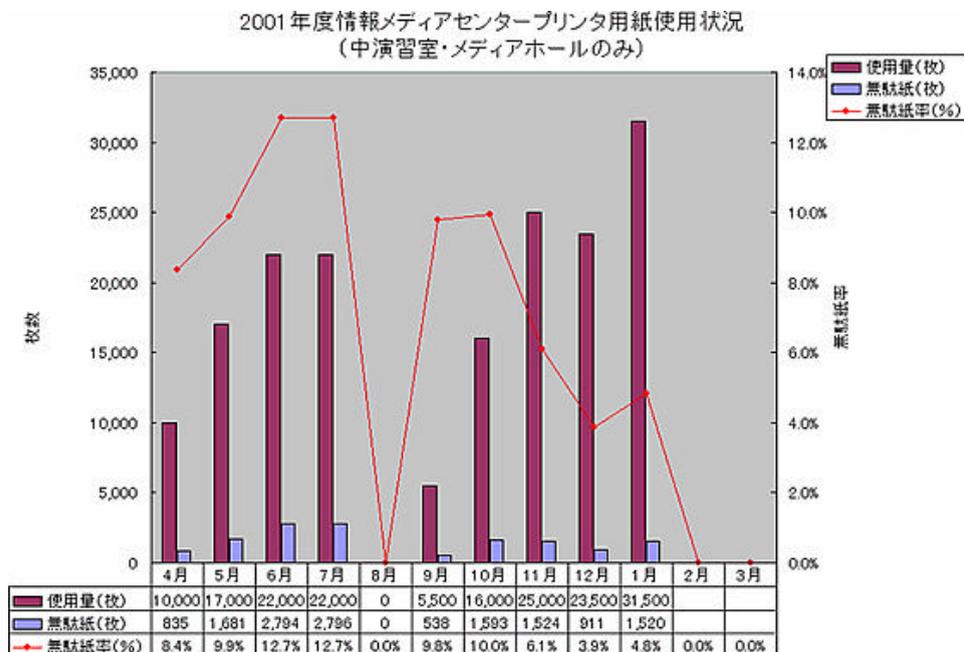


図1 2001年度年間プリンタ用紙使用状況

室とメディアホールに関して行った)。(注1)これによると、対象期間中の無駄紙率は1度高くなったものの、徐々にではあるが削減してきていることが分かる。

HARA Naomi
武蔵工業大学環境情報学部情報メディアセンター事務員

情報メディアセンターでは無駄紙削減のために、2000年始めから各演習室のPC ログオン画面(図2)やホームページで、同じものを何度も印刷するような“多重印刷注意”を促す旨のメッセージを掲示してきた。このメッセージ掲示は学生の無駄紙使用への意識を高めたものの、プリンタの性能そのものの劣化もあり、なかなか無駄紙率削減には結び付きにくいようであった。



図2 ログオン画面

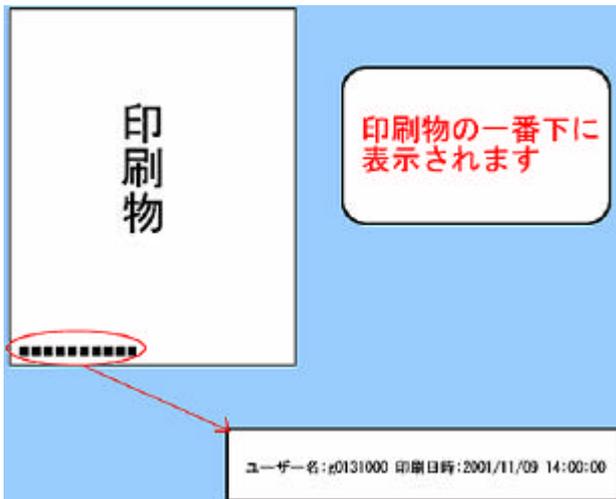


図3 フッター情報



図4 ジョブ確認画面

2002年8月には情報メディアセンターの情報機器が一斉更新され、プリンタも中演習室においては3台から5台に増え、既存のものより処理速度の速い機種が導入されるなど、環境の変化があった。プリンタ台数の増加によるプリンタ用紙使用量の増加はさほど見られなかったが、2002年11月から印刷物のフッターに印刷を実行した日時とユーザ名(学籍番号)の情報を記すようにした(図3)ことにより、無駄紙率はかなり削減した。またジョブの進捗情報を確認できるプログラムで、各プリンタの混雑状況などを確認する事が出来るようになったことも、無駄紙の削減に効果をもっているものと思われる(図4)。

年度末になると卒業論文や課題等のミスプリントの放置が目立つようになった。これに対しては無駄紙のフッター情報から印刷を行った学生を特定し、放置された無駄紙が10枚以上である場合には情報メディアセンターより注意を促すメールを本人宛に送信している。これも無駄紙率削減にかなり効果をあげたものと推測される。

3 まとめ

情報メディアセンターでは無駄紙を減らすために、試行錯誤を繰り返しながら様々な工夫をしてきた。機器更新の際にプリンタサーバを導入し、プリンタログを取れるようになったので、演習室毎、また個人毎のプリンタ利用状況の記録をとることが出来るようになった。これらの詳細な情報は、今後、無駄紙率が上がった際の原因究明と、対策に役立つと思われる。

これからも教員、学生、職員、三位一体となって継続的で、効率よい無駄紙削減を実現するために努力していきたい。

(注1) なお、図1において8月のプリンタ用紙使用量、無駄紙率の数値が0になっているが、機器更新を行い、学生への演習室開放を行わなかったためである。